

平成31年3月 定例会（第1回）会議録（抜粋）

○7番（渡辺厚子さん） 議場の皆様、おはようございます。公明党の渡辺厚子です。

3.11 東日本大震災から、この3月で8年の月日がたとうとしています。私は、あの震災直後に初当選した議員として、毎年、この季節がめぐり来るたびに、当時の状況と犠牲になられた方々のことを思わずにはられません。被災地の着実な復興を祈るとともに、今期最後の一般質問では、我がまち木更津のさらなる発展を願い、大綱1点、まちの魅力とにぎわいのある交流づくりについて、質問をいたします。

私は、平成5年に東京から木更津に越してまいりました。当時は西口のそごうやショッカー、東口のEPOやダイエー、太田山近くにあったDマートなどもよく利用したのですが、それらはどんどん姿を消していき、昔の木更津を知っている方々からは、「木更津も寂しくなっちゃったよ」と、かつてのにぎわいが失われてしまった嘆きの声を聞くようになりました。しかし、アクアラインも開通し、市内の各所には次々と新しい集客施設や交流拠点が生まれ、新たな参入の情報もどんどん入ってきています。思い浮かぶキーワードを列挙してみますと、三井アウトレットパーク、イオンモール、道の駅、サーフィン、ポルシェ、金田地域交流センター、大型クルーズ船、ローヴァーズ、コストコなどなど。このように人口増加とあわせて発展を遂げている本市ですが、今回は私なりの視点で、中項目2点に絞って、お聞きしたいと思います。

初めに、中項目1点目、空間（場所）のさらなる活用について。

新たな公共施設や大型商業施設などの建設、新興住宅地の開発などによるにぎわいの創出への期待が大きいところではありますが、既存の施設や場所を最大限に有効活用することも、持続可能なまちづくりにとって、重要であると思っています。その中でも、空き家・空き店舗については、私は、平成27年9月議会において、地域資源としての空き家・空き店舗活用について、本腰を入れて取り組むべきとの思いで、質問・提案をして以来、たびたび進展を確認してまいりました。この間、市では、空き店舗情報登録制度や空家バンク制度がスタートしましたので、今後の利用拡大を期待しているところです。また、私は、年間を通して開催される市のさまざまなイベントも、まちのにぎわいづくりにつながっていることを実感している一人であります。そこで、今回は、既存の空間をさらに活用することで、まちのにぎわいを増していこうという観点で、小項目3点について、質問と提案をしたいと思います。

初めに、空家バンク制度の活用について。

本市の空家バンク制度は、スタートしてからまだ1年余りですが、私は、ホームページを見ては、空き地や空き家の登録物件が少しずつ増えていく様子や、価格の見直しなどが随時更新されていることを確認しています。今後、この制度が広く周知されるとともに、内容の充実と利用拡大が進むことを願い、お伺いします。

まず、アとして、空家バンク制度の利用状況について、制度の概要を改めてお示しいただいた上で、登録や成約、相談受け付けなども含めて、ご説明ください。

次に、イとして、空家リフォーム助成制度の利用状況について、制度の概要と申請、交付、相談などの状況はどのようになっているか、お聞かせください。

最後に、ウとして、高齢者サロンや子ども食堂など、地域の交流拠点となる特定施設としての利

用促進が、どのように図られているのか、伺います。

小項目2点目は、空き店舗の活用について。

平成29年8月にスタートした空き店舗情報登録制度は、市のホームページで登録物件一覧を見ることができますので、私は、空家バンク制度同様に、時々進捗状況を確認しております。そこで、以下の3点についてお伺いします。

アとして、登録制度全般の利用状況について、イとして、空き店舗活用支援事業補助金や中小企業資金融資制度などの各種支援制度の利用状況について、ウとして、商店街などの空き店舗の所有者に対して、登録の案内などの働きかけはどのようにされているのか、お聞かせください。

次に、小項目3点目、駅周辺や名所の活用について。

本市では、みなとや駅周辺でさまざまなイベントが開催され、たくさんのパフォーマーが出演し、会場を盛り上げてくれています。そこで、新たなにぎわいのメニューとして、木更津駅周辺や名所を定期的に活用する取り組みを提案したいと思います。

まず、アとして、市公認の路上ライブの開催について。

私は、船橋市や朝霞市などが先進市として参考になると思っています。船橋市のまちかど音楽ステージは、地域の音楽家の支援とまちのにぎわいを兼ねて、駅とビルの連絡デッキにおいて、毎週金曜日の夕方から開催されています。また、朝霞市では、駅前広場において、ストリートライブをする演奏者などを認定し、健全なストリートライブ活動の誘導を図ることによって、駅周辺の活性化と音楽のまちとしての側面のPRに取り組んでいます。本市でも、駅周辺のスペースを利用した、市公認路上ライブを開催してはいかがでしょうか。

また、イとして、コスプレイヤーが市内の名所を撮影スポットに利用できるような、イベントやツアーの展開について、どのようにお考えでしょうか。

続きまして、中項目2点目は、地域人材の新たな活躍について。

私は、初当選以来、支えあうまち、誇れるまち「きさらづ」の構築を目指して、議会活動に取り組んでまいりました。そして、なるべくお金をかけずにできること、今ある資源を有効に活用してニーズに応えることで、費用対効果の面でも価値のある取り組みかどうかを考えながら、さまざまな提案をしてきたつもりでございます。これまでの一般質問でも、地域力・市民力をテーマに、何度か質問をしてまいりましたが、今回は2点提案させていただきます。

1点目は、ふるさと応援団などの名刺を活用した魅力情報の発信です。

これは、市民の方から提案された、広島県尾道市の取り組みを参考にしています。それは尾道市の魅力を志を持って県外に発信するボランティアを「尾道観光大志」と名づけて、尾道が好きならどこに住んでいる人でも応募でき、大志には尾道映画資料館など、市が運営する観光施設の無料優待券などになる名刺を配付、大志たちは無償の活動として、日頃出会う県外の人たちにこの名刺を手渡すことで、尾道を訪れる観光客を増やすことに努めるというプロジェクトでございます。この取り組みを、私なりに木更津バージョンとして取り入れられないものかと思案しましたところ、例えば、週末木更津計画のクーポンが利用できるような、木更津を訪れた人にお得な情報を載せるなど、木更津の魅力を発信するツールとして活用できるのではないかと考えました。この名刺の活用について、市の見解をお聞かせください。

次に、2点目は、(仮称)お助け隊で地域課題をサポートについてです。

日頃、地域を歩いておられますと、住民の皆さんから、さまざまなお相談やご要望をいただきます。その中でも、最近特に寄せられるお声は、このあたりは年配者ばかりになってしまったので、側溝の清掃や山側の除草などが困難になってきた、また、地域行事も継続していくのが大変だといった、高齢化に伴う課題についてです。地域の課題については、主に自治会、町内会などの単位で取り組んでいるものの、加入率の低下や高齢化の進展で、役員の選出も難しい状態は、多くの地域が抱える問題です。そこで、これらの課題解決の糸口として、地域にこだわらない活動が展開できればよいのではないかと考えます。例えば、お祭りのおみこしの担ぎ手や側溝ますの清掃など、力の要る作業に、地域外の有志が臨時で参加できる仕組みをつくってはどうかと思うのです。これを私は(仮称)お助け隊として提案したいのですが、各地域のリクエストとそれにピンポイントで応えられる人をつなぐ、コーディネートができれば、それぞれの負担軽減になるのではないのでしょうか。地域のお困り事をお助け隊の活動でサポートができるだけでなく、地元に限らない、人の交流が生まれ、市外からの新たな移住・定住者にも、木更津への愛着が増すのではないかとと思うのですが、この(仮称)お助け隊の活動による地域課題のサポートについて、市の考えをお聞かせください。

以上で私の最初の質問を終わります。

○市長(渡辺芳邦君) 皆様、おはようございます。本日もどうぞよろしくお願いたします。

それでは、渡辺厚子議員のご質問にご答弁申し上げます。

私からは、大綱1、まちの魅力とにぎわいのある交流づくりについて、中項目1、空間(場所)のさらなる活用について、お答えいたします。

まず、空家バンク制度の活用の、空家バンク制度の利用状況についてのお尋ねでございますが、本制度は、住宅ストックの活用を図るため、平成29年12月に運用を開始いたしました。制度の概要でございますが、空家バンクへの登録の要件としまして、空き家につきましては一戸建ての住宅で、管理が適切に行われており、大規模な修繕の必要がないもので、不動産事業者と媒介契約を締結していないものとしています。また、空き地につきましては、建物を取り壊した跡地であるものとしています。市では、広報紙やホームページに制度を紹介する記事を掲載するとともに、平成30年4月に送付しました固定資産税の納税通知書に、制度のお知らせをするチラシを同封し、周知を図ってまいりました。利用状況につきましては、現時点におきまして、空き家14件、空き地2件を登録し、ホームページで公開しております。なお、さらに、空き家3件の申し込みをいただいております。登録の準備を進めているところです。また、利用希望者につきましては、42名の方の登録がございます。これまで、空き家の所有者と利用希望者のマッチングを行ったところ、空き家につきましては、賃貸借契約が2件と売買契約が2件の計4件が成約となり、空き家の利活用につながったものと考えています。

なお、空家バンク制度に関する問い合わせや相談といたしましては、空き家の所有者からは、老朽化している空き家が登録できるのかとの相談がございました。また、利用希望者からは賃貸物件の有無や、木更津駅周辺及び矢那地区に立地する空き家についての問い合わせが多く寄せられています。

次に、空家リフォーム助成制度の利用状況について、お答えいたします。

本制度は、空家バンクの利用を促進し、空き家の利活用により、移住・定住や地域の活性化を促進することを目的に、平成30年5月から募集を開始いたしました。制度の概要でございますが、助成の対象となる空き家は、空家バンクに登録されたもので、対象となる方は、空き家の所有者、購入者または賃借人としています。助成額は、住居として利用する場合は、リフォーム費用の2分の1以内で、50万円を限度としています。また、高齢者支援や子育て支援などの施設として利用する場合は、リフォーム費用の3分の2以内で、150万円を限度としています。なお、耐震改修工事を行う場合や申請者が子育て世帯や新婚世帯などの場合は、加算する措置を設けてございます。加算を考慮した場合、1件当たり最高200万円までの助成額となっております。利用状況につきましては、これまで2件の申請がございました。その概要でございますが、1件目は、賃貸借の物件で、賃貸借契約の成立後、所有者が賃借人の希望を伺い、リフォームを行ったもので、既に工事は完了し、所有者に対しまして助成金を交付し、現在は賃借人が入居しています。2件目は、売買の物件で、売買契約の成立後、購入者がリフォームを行うもので、現在、施工中であり、年度末に工事の完了を確認し、助成金を交付する予定となっております。なお、空家バンク制度の説明にあわせ、リフォーム助成制度をご説明しますと、所有者、購入者または賃借人が利用できるということで、制度に対しまして好意的なご意見をいただいているところでございます。

次に、特定施設としての利用促進について、お答えいたします。

空家リフォーム助成事業では、高齢者サロンなどの高齢者支援施設や子ども食堂などの子育て支援施設などを特定施設として位置づけ、空き家の利活用を進めていく上で、これらの施設が地域の活性化に寄与するものとして捉え、住居として利活用する場合より、助成額を優遇しているところでございます。まだ実績はございませんが、これまでの相談内容としましては、施設を開設したい地域に空き家の登録があるか、また、賃貸の物件があるかというものでございました。市としましては、空き家を地域の活性化に寄与する施設として利活用することは有効なものと考えており、空家バンクや空家リフォーム助成制度の情報共有を行い、全庁的に連携がとれる体制を整備しております。また、今後も高齢者支援活動を行っている団体などに対しまして、空家バンク制度などの周知に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、空き店舗の活用についてお答えいたします。

初めに、空き店舗情報登録制度の利用状況でございますが、本制度につきましては、平成29年8月の運用開始以降、これまでに15件の空き店舗情報が登録されております。このうち5件は成約となっており、現在は10件の空き店舗情報が登録されております。この空き店舗情報は、年間70人を超える創業希望者の相談に応じている、木更津市産業・創業支援センターらぶーBizでのマッチング支援としても、活用されているところでございます。

次に、補助金等各種支援制度の利用状況でございますが、昨年8月に創設した空き店舗活用支援事業補助金につきましては、本年度3件の補助を見込み、予算措置したところ、これまで2件の申請を受けているところでございます。1件は富士見の居酒屋で、昨年12月に開業をいたしました。もう1件は中央に開業を予定しております整体店で、現在、年度内の開業に向けて、工事を進めている状況でございます。その他、市内で開業しようとする方に対する、資金面からの支援といたしましては、木更津市中小企業資金融資制度に開業・育成資金を設けており、利子の一部補給とあわせ、本年度、新たに1件のご利用をいただいております。

次に、空き店舗所有者への働きかけでございますが、駅周辺の自治会に対して、説明会の開催やチラシの回覧を行うとともに、市ホームページやデジタルサイネージ等を通じて、登録の呼びかけを行っております。また、登録物件の充実に向けて、先月からは、らぶーBizのセンター長・副センター長と市の担当者が、市内の不動産業者を個別訪問し、空き店舗対策の取り組みの趣旨等について、説明を行ったところでございます。さらに、来月 20 日には、らぶーBizと連携し、本制度の登録物件を活用した新規出店を促進するため、物件を実際に見て回り、プロのインテリアコーディネーター、大工、厨房設備士がその場でアドバイスを行う、駅前出店希望者向け完全サポートツアーの開催を予定しております。今後も、らぶーBizと連携し、空き店舗の有効活用を図ることで、まちのにぎわいづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、駅周辺や名所の活用について、お答えいたします。

まず、市公認路上ライブの開催についてでございますが、議員おっしゃいますとおり、港や駅周辺では、木更津港まつりやパークベイフェスティバル、木更津ナチュラルバル等のイベントに多くのパフォーマーが出演し、にぎわい創出の一端を担っていただいております。そこで、新たにパフォーマンスを行いたい方々の路上ライブにつきましては、地域に根差した音楽家への支援やにぎわい創出の相乗効果の観点から、現在、毎月実施しております木更津ナチュラルバル等のイベントとの連携の中で、まずは、実施を検討してまいります。

次に、コスプレ関連事業の展開についてでございますが、これにつきましては、これまで、名古屋市や苫小牧市などで実施され、集客による消費の拡大など、経済効果に結びついております。本市においても、今年度につきましては、木更津市観光協会の映像支援事業の中で、都内コスプレ関連事業者からの依頼により、クリーンセンター工場棟を会場に計8回、400名以上の参加のもと、コスプレ撮影会を実施したところでございます。参加者からは、「また参加したい」、「とてもよかった」等、大変好評を博したところであり、来年度も開催する方向で、現在、調整を進めております。今後は、さらなる集客による消費の拡大に向けて、観光協会内DMOの自主事業としてもツアー造成できるか、検討してまいります。

私からは以上でございます。その他につきましては、関係部長から答弁いたします。

○**経済部長(栗原由和君)** 私からは、大綱1、中項目2、地域人材の新たな活躍について、お答えいたします。

まず、ふるさと応援団等の名刺を活用した魅力情報の発信についてでございますが、ご承知のとおり、昨年 11 月に、本市出身のジェフユナイテッド市原・千葉所属の鳥海選手を初め、10 名の方々に、木更津ふるさと応援団へ就任をいただきました。一昨年 11 月に就任されました2名の木更津PR大使や木更津ふるさと応援団の皆様には、資料1のとおり、現在、本市の魅力として、東京湾アクアラインや木更津港まつり、潮干狩などの観光名所やイベントを紹介する名刺を、市外の方々に配布していただいております。そこで、その名刺に、現在実施しております週末木更津計画のクーポンが利用できる、QRコードをあわせて印刷し、配布いただくことで、本市の飲食店やレジャー施設、イベント等の情報発信をしてまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○市民部長(地曳文利君) 私からは、大綱1、中項目2につきましてお答えいたします。

(仮称)お助け隊で地域課題をサポートについてでございますが、地域の課題解決につきましては、議員おっしゃるとおり、各地区の自治会や町内会を中心に、取り組んでいただいているところでございます。本市においても、地域により差がございますが、少子高齢化、人口減少社会の到来、地域の担い手不足、自治会加入率の低下や地域のつながりの希薄化などにより、さまざまな問題が生じ始めていると理解しており、市では、そうした問題を解決する場として、現在、地区まちづくり協議会の設立を推進しているところでございます。現在、催事などを協議会が実施している地区がございますが、協議会が行うことにより、行事にかかわる人員の確保が容易になることはもとより、地区内にある団体が一堂に会することで、団体間のコミュニケーションを図る場ともなっております。市といたしましては、地区まちづくり協議会の市内全域での立ち上げを目指しており、協議会が設立されることにより、地域にある固有の課題の解決が進められることを期待しておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

私からは以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 丁寧なご説明ありがとうございました。

それでは、再質問させていただきます。

初めに、空家バンク制度の利用についてお伺いします。

空家バンク制度の利用状況につきましては、先ほどのご答弁をお聞きしますと、この1年余りでの利用状況としては、順調に進んでいるのではないかと、私は認識しております。ただ、市民の皆様の中には、空家バンクのことを知らない方が、まだまだいらっしゃるのが現状です。私自身も、個人の議会報告会や通信の発行の際に、制度のお知らせをしておりますけれども、より多くの方に知っていただいて、必要な時に活用してもらうためには、やはり周知が大事だと思います。空家バンク制度のさらなる周知について、今後どのように取り組んでいくのでしょうか。

○都市整備部長(渡部史朗君) 空家バンク制度の周知につきましては、現在、ホームページやフェイスブック、移住・定住促進パンフレットなどへの掲載のほか、チラシの配布などを行っており、引き続き、さまざまな広報手段を活用し、PRに努めてまいりたいと考えております。特に、昨年4月に固定資産税の納税通知書にチラシを同封しましたところ、5月までに新たな登録物件が5件増えたことから、市外にお住まいの所有者にも、本制度を周知する有効な手段として考えております。このため、今年も納税通知書に空家バンク制度などをご案内するチラシを同封し、周知を図ることとしております。

以上でございます。

○7番(渡辺厚子さん) 今、市外の所有者にも通知できる有効な手段として、今年も納税通知書に制度のチラシを同封する予定だということですが、そのチラシというのは、前回と同じものなのか、または掲載内容で何か変える点があれば、教えてください。

○都市整備部長(渡部史朗君) 前回同封しましたチラシでは、主に空き家の適切な管理に関し周知を図るとともに、空家バンク制度の概要をご紹介いたしました。今回同封するチラシにつきま

しては、空家バンク制度に加え、空家リフォーム助成制度につきまして、助成額などの概要をご紹介します。より一層、空家バンク制度及び空家リフォーム助成制度の活用につながるよう、PRに努めてまいりたいと考えております。

○7番(渡辺厚子さん) その空家バンク制度は、親が亡くなった後に、親世代が住んでいた家の空き家を管理する立場となった、他地域に住んでいる子の世代にとって、役立つ制度だと思っております。案内チラシにつきましては、受け取った人が興味を持ってくれるような、工夫をしていたらと思っております。

それから、最初のご答弁で、特定施設としての実績はまだないものの、問い合わせはあったということでした。この特定施設に関連するのかなと思っているんですけども、実は、地域の方から寄せられたご要望なんですけど、公民館とかで、さまざまなサークル活動や高齢者向けの行事等もあるけれども、公民館まではなかなか距離があると。町内にたくさん空き家があるから、町会ごとに1ヶ所ぐらいサロンなんかがあると、歩いて行けたりするからいいんだけどなあ、などというお声もいただいたことがあります。特定施設としての利用が進んでいけたらいいのになという思いでお聞きしました。この空家リフォーム助成制度について、先ほどご答弁で、全庁的に連携がとれる体制を整備しているということでしたので、地域の交流拠点として運営ができる団体が出てくることを、期待したいと思っております。何はともあれ、登録物件が増えないことには始まらないと思いますので、今後もPRに注力していただきますよう、お願いいたします。

続きまして、空き店舗の活用についてお聞きいたします。

空き店舗活用支援事業補助金については、今年度は2件の申請があったとのご答弁がございました。この制度に関する問い合わせはどれくらいあったのでしょうか。

○経済部長(栗原由和君) 昨年8月から現在まで、14件の問い合わせを受けております。内訳といたしましては、所有者から5件、空き店舗を活用したい方から9件となっております。

○7番(渡辺厚子さん) 関心は持っていたらいいんだということがわかりました。

次に、確認なんですけれども、空き店舗活用支援事業補助金制度というのは、店舗ではなくて、事務所でも対象となるのでしょうか。

○経済部長(栗原由和君) 木更津市空き店舗活用支援事業補助金交付要綱におきましては、空き店舗の活用による中心市街地のにぎわい創出を目的に、小売業、飲食業、その他商店街の活性化に寄与すると認められるもので、週5日以上営業し、直接お客様が店舗に来られるものを対象としております。したがって、基本的には店舗を想定しております。しかしながら、当該条件に該当する事務所については、補助対象になり得る場合もあると考えられますので、個別事案として対応させていただきたいと思っております。

○7番(渡辺厚子さん) 個別事案として対応してくださることなので、これもあるボランティア団体の代表の方から、事務所を探しているんだけどなどというご相談があったので、この制度について使えるか、ちょっと確認させていただきました。お問い合わせがあった際は、対応をお願いし

たいと思います。

空き店舗の活用につきましては、最初の答弁でさまざまご説明をいただきましたとおり、らぶーBizとの連携で進展していることがわかりました。センター長、副センター長、市の職員が、不動産業者を訪問しているということ、また3月20日に予定されている駅前出店希望者向け完全サポートツアーは、物件の紹介だけでなく、現地でアドバイスも行うという、一歩踏み込んだアプローチなので、その成果を期待したいところでございます。空き店舗の活用につきましては、閉まっていたシャッターが少しずつ上がっていくことが、目に見えて活性化を実感できるんだらうと思いますので、これからも着実かつ積極的な働きかけをお願いします。

次に、小項目3点目の、駅周辺や名所の活用についてお聞きします。

まず、市公認路上ライブの開催についてですが、先ほどナチュラルバルなどのイベントとの連携の中で、路上ライブ実施を検討するというご答弁をいただきましたが、将来的には、最初にご紹介しましたような、船橋市などの先進市のように、単独での開催機会を増やしていくということも、期待してよろしいのでしょうか。

○**経済部長(栗原由和君)** 路上でのパフォーマンスを行う場合、通行人の通路の確保や、近隣住民に迷惑がかからないよう音量制限が求められます。このため、来年度につきましては、まずはナチュラルバル等のイベントとの連携の中での実施を検討し、その結果により、将来的に単独での開催も検討していきたいと考えております。

○**7番(渡辺厚子さん)** まずはナチュラルバルということで、将来的には可能性もあるということですが、私として勝手に思い描いているイメージとしては、場所はなるべく屋根があってほしい。音楽だけでなく、さまざまなジャンルのパフォーマーが参加できるようにしてほしい。高校生のジャグリングなども、いろんなイベントで活動しておられるのも目にすることがあったと思います。運営方法につきましては、先ほど紹介しました先進市にアドバイスをもらうなどして、進めていってほしいなと思っております。実は私も、今回の質問をするに当たりまして、船橋市や朝霞市の職員の方にもいろいろお聞きしたところ、丁寧に教えていただきました。地域の若者、また年齢関係なく、皆さんがまちなかで楽しい演出をしていただいて、また、それを楽しめる市民が駅周辺に集まってくるような、そういう木更津市、実はもうずっと前から思い描いていたんですが、今回初めて提案させていただきます。ナチュラルバルをきっかけでも、何でも構いませんので、ぜひ事業化を進めていっていただきたいと思います。

次に、コスプレ関連事業の展開についてなんですが、先ほどコスプレ撮影会が参加者から好評を博しているというお答えがありました。その内容について、もうちょっと詳しく教えてください。

○**経済部長(栗原由和君)** 先ほど市長からご答弁申し上げさせていただきましたが、今年度の撮影会につきましては、クリーンセンター工場棟を会場に計8回、400名以上の参加のもと、実施したものでございます。参加者それぞれがSNS等でアップするなど、楽しんでいただいたものでございます。撮影会につきましては、駅周辺で行われる木更津バルや木更津ナチュラルバルと同時期に開催することで、撮影会に参加された方々に、それぞれイベントのチケットを購入いただき、駅周辺の魅力を楽しんでいただける機会もあわせて提供できるよう、努めているところでございます。

○7番(渡辺厚子さん) クリーンセンターの工場棟ということなんですけれども、コスプレイヤーのほかに、撮影するスタッフなんかも、その中には含まれているなというふうに思います。この撮影会なんですけど、実施に当たっては、観光協会としてどのようなかわり方というか、取り組みをしているんでしょうか。

○経済部長(栗原由和君) この撮影会は、観光協会が映像支援事業の一環として、行っているものでございます。具体的には、撮影会の実施に当たり、事前に、会場でありますクリーンセンター工場棟を確保いたします。撮影会当日につきましては、映像支援事業の職員が、立ち入り禁止区域に参加者が立ち入らないよう、終日立ち会いを行い、立会料をいただいております。また、バルチケットを購入いただくほか、市内事業者から昼食の注文をいただくことを、撮影会参加の条件といたしております。

○7番(渡辺厚子さん) 映像支援事業として取り組まれたということなんですけど、今までこのコスプレ関連事業が行われていたことについて、市のホームページにも掲載されていなかったように、私は思っています。見損なっているのかもしれないんですけども、知っている人は余りいないんじゃないかなと思うんですね。私が提案しているのは、イメージしているのは、市内の名所、赤い橋であるだとか、寺社もありますし、レトロ建築もあります、そういった名所を中心に、まちなかでコスプレイヤーの姿が見られるようなツアーなんですね。特にそれが大事かなと思っているのは、衣装の着替えがちゃんとできる、フィッティングルームを確保してあげることが、大事だなと思っております。それは私のイメージなんですけれども、DMOの事業として取り組んでいくことも、検討というふうにおっしゃっていただきましたので、これがさらに発展していくことを期待しております。

次に移りたいと思います。

中項目2点目、地域人材の新たな活躍に移ります。

まず、ふるさと応援団等の名刺を活用した魅力情報の発信については、私の提案が実施される旨のご答弁をいただいたものと理解しております。「週末木更津計画のクーポンが利用できるQRコードを裏面にあわせて印刷した名刺」とお答えいただきましたが、これはいつ頃から活用できそうなんでしょうか。

○経済部長(栗原由和君) 木更津PR大使や木更津ふるさと応援団の名刺を活用して、さまざまなPRを行うことにつきましては、大変効果的と考えておりますので、企画部と調整しながら、平成31年度のできるだけ早い時期から、印刷し、活用してまいりたいと考えております。

○7番(渡辺厚子さん) この名刺についてなんですけど、名刺をもらった各地の人たちが木更津に来てくださって、クーポンを利用していただければ、参加店でも名刺の提示でクーポンの利用状況の一端がわかると、また、ふるさと応援団の皆様にとっても、自分が渡した名刺が地元に戻ってきたことがわかるので、よい循環になるんだろうと思います。ご答弁で、早い段階で取り組んでいただけるということでしたので、楽しみにしたいと思っております。

次に、(仮称)お助け隊で地域課題をサポートについてお聞きします。

まず、お答えでまちづくり協議会の話がされたんですが、新たな設立予定というのはございますでしょうか。

○市民部長(地曳文利君) お答えいたします。

新たに中郷地区が、6月を目途に、設立の準備を行っているところでございます。

○7番(渡辺厚子さん) 中郷地区で1つ立ち上がりそうだということですね。設立準備だということ。確実に増えているかとは思いますが、市内全域に広がっていくためには、この取り組みの成功事例が参考になると思います。自治会単位の課題が協議会単位になって解決しているという事例は、どのようなものがあるか、ご紹介いただきたいと思います。

○市民部長(地曳文利君) 一例を申し上げますと、鎌足地区におきましては、まず、協議会設立に当たり、地区住民に向けてアンケート調査を実施いたしました。アンケートで寄せられたさまざまな地域課題に対し、協議会としてどのような体制を構築すべきか、話し合った結果、協議会を6つの専門部会に分け、課題解決に取り組んでおります。部会を編成するに当たり、既存の組織の枠を超えて、部会を構成したことで、円滑な協議会運営が図れているとのことでございます。

○7番(渡辺厚子さん) 今ご紹介いただきました、鎌足地区のような取り組みは、すばらしい例かなと感じました。ですが、まちづくり協議会の役割が大きいということは、私も認識しているつもりなんですが、全地域で立ち上げるにはまだまだ時間がかかるなと思っています。中心となる人はどうしても何がしかのお役目を既に担っている方たちですので、先ほど言った高齢化、また中心者のご負担がどうなのかなという点では、課題があるのかなと思っています。

そこで、私が提案している、この(仮称)お助け隊というのは、地域という枠や組織を超えて、誰でも参加できる、気軽で柔軟なピンポイントボランティアとしての活動をイメージしております。例えば、市民活動支援センターやボランティア団体が、SNSなどを活用して、コーディネート、マッチングができれば、運営が可能かと思うんですが、その点はいかがでしょうか。

○市民部長(地曳文利君) 現在も市民活動支援センターでは、団体同士をつなぐマッチングを積極的に展開しております。今後は地域と団体をつなぐ取り組みを進めるとともに、引き続き、ボランティアを実施している団体等の活動を、サポートしてまいりたいと考えております。

○7番(渡辺厚子さん) 市民活動支援センターに一役担っていただけるのかなということを、期待したいと思っていますので、よろしくお願いいたします。(仮称)お助け隊というのは、自治会やまちづくり協議会の活動の補完的な役割として、市内全域の幅広い意味での地域人材の活躍の場となると思っています。ぜひともそのフィールドを整えていただきますよう、よろしくお願いいたします。また、ゆくゆくは行政ポイントが付与できるような活動になればなど、私は勝手に思っております。よろしくお願いいたします。

最後になりますが、私はこれまで8年間の議会質問の中で、市民の皆様からのお声を踏まえて、さまざまな提案をしております。執行部の皆様には、誠意を持って対応していただきました。特に今年度をもって退職される皆様には、この場をおかりしまして、感謝申し上げます。私の質問を

終わります。
ありがとうございました。